



『毒水?』

炭酸パワーがスゴイらしい



毒水とは?

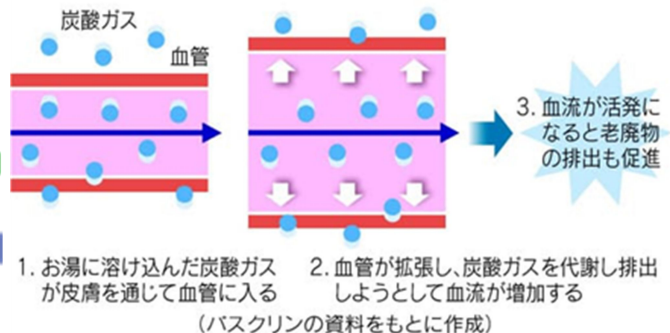
有馬温泉と言えば...。がつんと刺激のある「ありまサイダー」。そして、お土産の定番「炭酸せんべい」がメジャーどころだ。「炭酸泉が湧き出ているため」との理由は周知の事実だが、1500年近くに及ぶ歴史の中で、炭酸泉がクローズアップされたのは、明治時代になってから。それまで、地元の人々に「**毒水**」として恐れられていたという。「泉源から発生する炭酸ガスで虫や鳥が大量に死んだため、地元の人『毒水』と呼んでいた。当時1杯1銭だったとか...。

欧州では昔から医療現場でも使われている。飲んだり、炭酸入りのお風呂に入ると血液の巡りが活発になり、疲労回復や胃腸の働きを整える。炭酸に最も期待されている効果とは、「**血管の拡張を促すこと**」。絶世の美女として有名なクレオパトラ（紀元前69年～紀元前30年）も炭酸飲料を飲んでいたという逸話があります。美容と不老長寿の秘薬として飲んでいたと伝えられている。

炭酸風呂に浸かる

炭酸泉は「ぬるめでも、老廃物をサラサラと排出できる、まさに美人の湯」。炭酸ガスは皮膚や胃の粘膜を通じて血管に進入する。血管は炭酸ガスを異物と見なし洗い流そうとするほか、血中の酸素量を増やそうと毛細血管まで拡張するため、管内の血流が増加。血の巡りが良くなり、新陳代謝が活発になり、老廃物の排出も促されるという仕組みだ。

お風呂の血流促進メカニズム



平野水をめぐる物語



能勢電鉄「平野」駅から北へ約300m、そこには平野鉱泉が湧き出ていました。「平野水」と名付けられたその水は、全国でその名を知られ、現在の「三ツ矢サイダー」となります。

炭酸水の代名詞ともいわれる「平野水」誕生

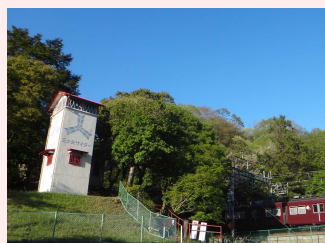
平安時代のころから塩泉が湧き出していた兵庫県多田村平野（現在の平野地区）。明治30年に東宮殿下(大正天皇)の御料品の指定を受けます。

「三ツ矢サイダー」の原形が人気商品に...

明治40年になると、「平野シャンペンサイダー」が発売。平野水に砂糖やクエン酸などを添加したもので、そばが3銭の時代に10銭という高級品でしたが、ヒット商品となり昭和43年には、現在の「三ツ矢サイダー」に名前を変えることとなります。

【豆知識】「三ツ矢」の名前の由来

平安時代、源満仲公が城を造る際に「矢の落ちた所に造りなさい」とお告げがあり、天に向かって矢を放ったところ、多田沼の「九頭の龍」に命中していた。そこで、満仲公はその矢を探しあてた男に、三ツ矢の姓と三本の矢羽の紋を与えた。また、満仲公が鷹狩りの際に見つけた霊泉が、多田村平野の天然鉱泉だったと伝えられている。



これらの伝承にちなんで、「三ツ矢サイダー」と名付けられた。